

平成 29 年仕事納め式訓示

(本庁・船泊支所)

平成 29 年 12 月 29 日

今日は、平成 29 年の仕事納めの日であります。
今年一年間のご協力に心から感謝を申し上げるところでございます。

特に、7 月には、多くの町民皆さん、そして、職員の皆さんの温かいご支援によって、私の 4 期目がスタートすることができました。あらためて感謝を申し上げる次第でございます。

地方創生総合戦略を力強く推し進めることが私の役割であり、また、多くの皆さんの願いと期待も、ここにあるのだろうと考えています。

皆さんには何かとお世話をおかけしますが、よろしく願いをいたします。

今年 8 月の所信表明の最後に、私は皆さんにこんなお話しをいたしました。

『1 2 年前に掲げた「元気な礼文づくり」の想いは、今も、私の心の中に強く大きく灯っています。

先人が築き上げてこられたふるさとに誇りを持ち、住んでよかったと誇れる活力あふれる元気な礼文にすることが私の願いです。愛する家族のために、お世話になった地域社会のために、そして、ふるさとの限りない発展のために「礼文町の未来に元気のタネ」をまいていきたい。そして、次の世代に誇りと自信を持って引き継いでいける「夢と希望に満ちた元気な町」「住んでよかったと誇りに思えるふるさと」を創り上げることが私の大きな願いです。礼文に住む人たちが「この町は住み良い」と実感し、「心豊かに暮らす」ことができれば、おのずから人が集まり人口が増えます。まさしく、これこそが「地方創生」だと思います。』…こんなお話をしました。

今年の4月1日の礼文町の人口は2,604人でありましたが、今月1日の人口は2,605人、わずかですが1人増えたのでございます。職員皆様のご協力をいただきながら総合戦略に記されている多くの取組みを進めたことで、わずか1人ですが増えたこと、これも皆さんの頑張りの結果であります。

暮れの21日の審議会では、さまざまな評価を頂いた中で、来年度もさらに前向きの事業展開をせよとの心強い方針が決まりましたし、先日の予算編成会議でもお話ししたとおりであります。

これからも、すぐに効果の出にくい「地方創生」総合戦略ではありますが、反省或いは改善する部分を検証しながら、新年度の事業に反映させていただきますように、あらためて、皆さんにお願い申し上げる次第でございます。

19日に気象庁から、北海道の東側にある「千島海溝」沿いで、今後30年以内に、東日本大震災級のマグニチュード9クラスの超巨大地震の起きる確率が最大40%と見込まれ、極めて「切迫している」状況であるとの予測が公表されました。わが町の周辺も、地震の空白地帯となっていますので、日本全国どこでも大きな地震の起こる可能性があり、いつ巨大地震や大津波が起きてもおかしくないとの意識を持つこと、特に、四方を海に囲まれた礼文島では、地震津波に対する心構えと備えがとても大事になるわけであります。

そうした中、今年の10月から、防災担当の専門職員防災マネージャー「防災監」として、元礼文分とん地の田住司令に本町に勤務をしていただいたところでございます。

早速に、町内各地で避難訓練や防災講話、子どもやお年寄りの防災など、多くの活動に取り組まれています。私は、とても大事なことだと思っています。

また、北海道から新たな浸水予想が出ていますので、わが町の地震津波への防災計画の見直しも行なわれています。

災害はいつ来るかはわかりませんが、必ずやってきます。地震津波への警戒を怠らず、職員が一丸となって町民の安全安心の確保に万全を尽くしていただきたいと思います。

さて、今年の町内の状況ですが、これまで何度も申し上げておりますように、漁業については、天然コンブの記録的な不漁に加え、ウニやホッケの価格低下など、全漁獲量では7,710トンと昨年を上回る水揚げを揚げていますが、金額では、史上最高だった昨年の41億6千万円を5億円ほど下回る36億円となっています。

また、平成 15 年から、一貫して右肩下がりでありました本町の観光入り込み数も、昨年から、わずかながら上昇に転じ、今年は 7.5%増の 12 万 6 千人と見込まれております。

海外からの観光入込目標を 4 千万人に上方修正しているわが国の観光施策と相俟って、いよいよ礼文島観光も明るさが見え始めたところではありますが、最盛期に比べますと、まだ半分にも満たない状況でありますので、観光も、また、水産もともに、来年への新たな挑戦が必要と考えております。

最後になりますが、明日から少し長めの年末年始の休みになります。

私は、新しい来年の戌年、大方の予想では、ようやく景気回復を実感できるようになるとのことでありますので、大きな期待をこめ、希望を持って迎えようと思います。

皆さんも、明るい気持ちで新年を迎えていただきたいと思います。

そして、来たる新しい年に向かって、しっかりと鋭気を養っていただきたいと思います。

あらためて今年一年のご支援ご協力に心から感謝を申し上げ、仕事納めの訓示といたします。

本当にありがとうございました。